

衛星劇場番組審議会 議事録

松竹ブロードキャスティング株式会社

1.開催日時：2026 年 1 月 29 日（木曜日）11：30～12：40

2.開催場所：コートヤード・マリオット銀座東武ホテル 会議室

3.委員の出席：

委員総数 10 名

出席委員数 8 名

中村歌六、太田博、堀江ミエ子、松本行央、植草信和、相坂吉郎、
田中絵美子、村居俊彦

放送事業者出席 9 名

大谷 二郎 代表取締役会長

井田 寛 代表取締役社長

笹島 光晴 経営企画室 担当取締役

鶴澤 由紀 事業戦略部・チャンネル統括部・放送運行部 担当取締役

深田 誠剛 衛星劇場部 担当取締役

小野 仁史 衛星劇場部 部長

妹尾 祥太 ホームドラマチャンネル部 部長

山野井 崇之 経営企画室 室長/番組審議会事務局

青木 侑子 人事総務部 課長/番組審議会事務局

4.議事概要

(1) 報告事項

- ・マーケット状況報告
- ・番組・編成内容に関する視聴者からの問い合わせ等について

(2) 審議内容

衛星劇場の編成およびオリジナル番組

「映画公開 35 周年記念特番 牧瀬里穂 あの時の記憶をたどって『つぐみ』－静岡県
賀茂郡 松崎町－」について

【番組審議委員 意見】

- ・映画『つぐみ』は根強いファンがいる名作である。映画の舞台となった場所を巡る企画は、視聴者に昔を懐かしむ「温かい気持ち」を提供でき、非常に良い企画であると感じた。

- ・映画の舞台となった旅館などの通りを巡り、地元住民との馴れ合いや、映画のシーンを交えた編集は、ノスタルジーを感じる構成となっており良かった。世代的に懐かしく楽しめた。

- ・他の映像作品での展開も考えても良い。例えば、映画『砂の器』の亀嵩駅など、ファンは「聖地」を訪れたいという強い思いがある。また、小津安二郎監督の映画『お早よう』でもイベントが行われている。過去の名作に関わった人々が、当時を語る企画には根強い需要があるのではないか。

- ・俳優だけでなく、当時のカメラマンやスタッフが現地を訪れ、「なぜその場所を選んだか」といった技術的・制作的背景を語る企画も需要があるのではないか。

【事業者回答】

- ・ロケ地訪問（聖地巡礼）はYouTube等でも人気があり、放送局としてそこにどのような付加価値をつけるかが課題。

- ・当時の出演者やスタッフが高齢化しておりハードルはあるが、以前に実施した事例もあり今後も引き続き検討していく。

(3) その他意見

- ・視聴ターゲットに近い老人ホームなど、法人営業にも注力すべきではないか。代理店に任せるだけでなく、事業者自らが直接営業を行うなどをすべきではないか。

以上